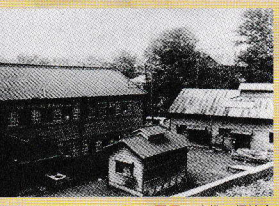
東京都市大学グループの祖

五島慶太

《鉄道事業と学校設置》

東京都市大学グループ（幼稚園から大学まで8校を有する）の設立には、明治から昭和にかけ鉄道事業と教育事業に情熱をささげた1人の人物を忘れてはならない。その人物とは大東急コンツェルンを一代で築いた五島慶太である。『教育こそは国家社会発展興隆の基礎である。樹を植えるは十年の計、人を植えるは百年の大計』の信念のもと、鉄道敷設とともに沿線開発では多くの大学を誘致し、自らも学校法人五島育英会を設立した。五島慶太と本学はどこでつながるのか、その歴史をたどる。

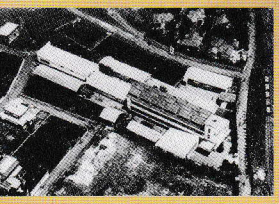


五反田時代の仮校舎
（昭和4年7月撮影）

1929年（昭和4年） 武蔵高等工科学校 設置

【創立者】及川恒忠・西村有作・手塚猛昌

校名の由来は1929（昭和4）年の設立の届け出に先立ち、教員と生徒が一緒に考えた。提案された校名は「日本」、「関東」、「東京」と既設校を連想する名称のものばかりであったが、発案者の一人が「武蔵」「武蔵野」と提案し「武蔵」に決定した。設立当初の校地・校舎は荒廃した工場跡であった。生徒たちは水道・排水工事、電気の配線、建具の補修など得意分野で奉仕協力し、教室整備に取り組んだ。



大岡山第1校舎全景

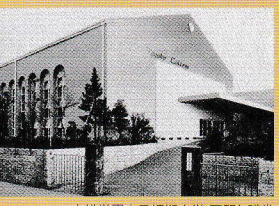
1932年（昭和7年） 武蔵高等工科学校 移転・校舎新築

当時、目黒蒲田電鉄専務取締役であった五島慶太は、武蔵高等工科学校の劣悪な校地・校舎の事情を知り、目黒蒲田電鉄所有の土地1,500坪に誘致した。あわせて校舎新築のため、電鉄より23,000円（現在:約1,300万円）の寄付をした。

昭和20年代の校舎全景
（現 世田谷キャンパス）

1939年（昭和14年） 武蔵高等工科学校 移転
1949年（昭和24年） 武蔵工業大学 設置

大岡山に移転してわずか6年で生徒増により教室が飽和状態となった。そのころ目黒蒲田電鉄社長であった五島慶太の格別の計らいにより、現在の尾山台に校地を設けた。1955（昭和30）年、校舎増築の資金調達の折には「私の保証で300万円を借りろというのか？ ゼロが一つ足りないではないか」と五島慶太の大きさを物語るエピソードが残されている。

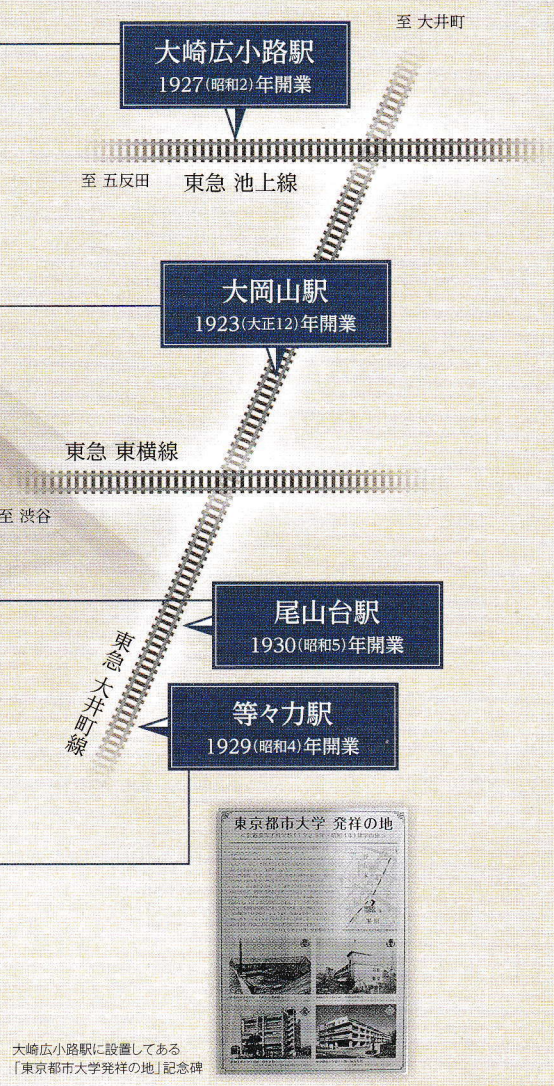


東横学園女子短期大学 正門と講堂

1956年（昭和31年） 東横学園女子短期大学 設置

【創立者】五島慶太

女子教育の必要性を重視していた五島慶太は、自ら意欲的に携わり、1938（昭和13）年に私財17万円（現在:約9,000万円）を原資として、東横商業女学校を設置。その後、1955（昭和30）年に学校法人武蔵工業大学と合併、学校法人五島育英会の発足を転機に、1956（昭和31）年、東横学園女子短期大学を設立した。



大崎広小路駅に設置してある
「東京都市大学発祥の地」記念碑

もっと都市大の歴史を知ろう！
東京都市大学歴史展示コーナー

場所 世田谷キャンパス 五島記念館［3号館］1階エントランスホール（2号館側）

1929年の武蔵高等工科学校創立時から現在に至るまでの発展、進化の過程を示したパネルボードや、建学の精神である「公正・自由・自治」の石碑、本学を設置する学校法人五島育英会初代理事長である五島慶太翁の情報ディスプレイによる音声記録など、生涯と功績をわかりやすく紹介。先達の足跡をたどることができます。

4月18日は世田谷キャンパスに！
五島慶太翁生誕記念日行事を開催

課外活動団体が世田谷キャンパス3号館にある五島慶太翁の胸像の前に集まり、建学の精神である「公正・自由・自治」と、慶太翁の「体力があって熱と誠とがあるならば、必ず成功する。」というメッセージを受け、楽しくかつ安全に配慮しつつ、勉学と課外活動の両立を目指すことを誓います。

「キャンパスライフ2018」より抜粋

TCU History

東京都市大学のあゆみ

●→東京都市大学(旧名:武蔵工業大学)の歴史
●→東横学園女子短期大学の歴史

1998年10月【平成10年】
●日本の大学として初の環境マネジメントシステム《ISO14001》の認証を取得。(環境情報学部)

1998年9月【平成10年】
●武蔵工業大学学長に堀川清司が就任。
●環境情報学部開設、環境情報学科設置。(神奈川県横浜市都筑区牛久保西)●工学部機械システム、電子情報、エネルギー基礎工学科増設。
●情報メディアセンター設置。●東横学園女子短期大学国語国文科、英語英文科を統合改組して言語コミュニケーション学科設置。

1997年4月【平成9年】
●水素エネルギー研究センター設置。

1992年4月【平成4年】
●武蔵工業大学創立60周年。

1989年10月【平成元年】
●武蔵工業大学学長に古浜庄一が就任。

1989年9月【平成元年】
●東横学園女子短期大学学長に高鳥正夫が就任。

1986年8月【昭和61年】
●東横学園女子短期大学創立25周年。

1981年6月【昭和56年】
●大学院工学研究科博士課程土木工学専攻開設。修士課程経営工学、原子力工学2専攻開設。

1981年4月【昭和56年】
●武蔵工業大学創立50周年。●情報処理センター開所。

1979年10月【昭和54年】
●武蔵工業大学学長に石川馨が就任。

1978年4月【昭和53年】
●大学院工学研究科修士課程土木工学専攻を開設。

1972年4月【昭和47年】
●東横学園女子短期大学家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻へ専攻分離。

1969年4月【昭和44年】
●東横学園女子短期大学学長に英修道が就任。

1968年6月【昭和43年】
●大学院工学研究科博士課程、機械工学、生産機械工学、電気工学、建築学の4専攻開設。

1968年4月【昭和43年】
●大学院工学研究科修士課程機械工学、生産機械工学、電気工学、建築学の4専攻開設。●東横学園女子短期大学国語国文科、英語英文科増設。

1966年4月【昭和41年】
●工学部機械工学科と生産機械工学科を合併し、機械工学科として発足。

1965年4月【昭和40年】
●原子力研究所開所。(神奈川県川崎市王禅寺四ツ田)

1961年10月【昭和36年】
●武蔵工業大学学長に山田良之助が就任。

1960年4月【昭和35年】
●武蔵工業大学創立30周年。

1959年10月【昭和34年】
●工学部生産機械工学科、経営工学科増設。

1959年1月【昭和34年】
●工学部電気通信工学科増設。建設工学科を建築工学科、土木工学科に分離。●東横学園女子短期大学家政科栄養士養成施設指定。

1957年4月【昭和32年】
●武蔵工業大学学長に八木秀次が就任。

1956年4月【昭和31年】
●東横学園女子短期大学開学(東京都世田谷区玉川等々力町)家政科設置。学長に石井鋼次郎が就任。

1955年5月【昭和30年】
●学校法人 武蔵工業大学に学校法人 東横学園を合併し、学校法人 五島育英会に改称認可、理事長に五島慶太が就任。

1955年3月【昭和30年】
●学校法人 東横学園理事長に五島慶太が就任。

1953年11月【昭和28年】
●学校法人 武蔵工業学園理事長に西村有作が就任。

1952年6月【昭和27年】
●武蔵工業大学学長に荒川大太郎が就任。

1952年4月【昭和27年】
●学制改革により武蔵工業大学に昇格。工学部機械・電気・建設の3工学科設置、学長に赤野正信が就任。

1949年4月【昭和24年】
●武蔵工業専門学校校長に赤野正信が就任。

1945年10月【昭和20年】
●武蔵工業専門学校と改称、電気通信科増設。

1944年3月【昭和19年】
●実業学校令、専門学校令による武蔵高等工業学校開設、機械・電気・土木・建築の4工学科設置、校長に猪狩亮介が就任。

1942年4月【昭和17年】
●財団法人 東横学園設立、理事長に五島慶太が就任。

1940年3月【昭和15年】
●武蔵高等工科学校校地移転。(東京市世田谷区玉川等々力町)

1939年12月【昭和14年】
●目黒蒲田電鉄(現在の東京急行電鉄)の総帥であった五島慶太が東横商業女学校設置。(東京市世田谷区玉川等々力町)

1938年12月【昭和13年】
●財団法人武蔵高等工科学校設立、理事長に西村有作が就任。

1938年4月【昭和13年】
●武蔵高等工科学校校長に猪狩亮介が就任。

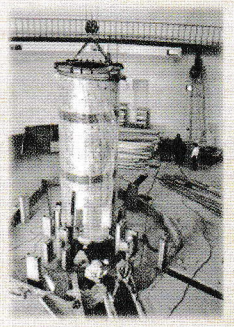
1937年2月【昭和12年】
●機械工学科増設。

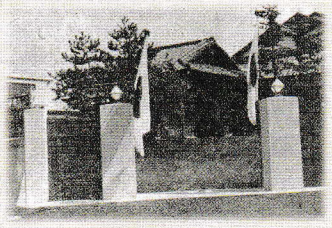
1934年4月【昭和9年】
●武蔵高等工科学校校地移転。(東京市大森区北千束町)

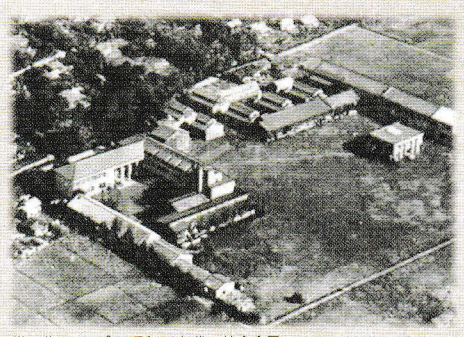
1932年9月【昭和7年】
●武蔵高等工科学校校長に竹内季二が就任。

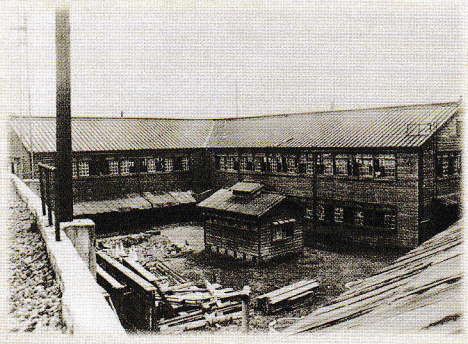
1929年12月【昭和4年】
●武蔵高等工科学校 武蔵高等工科学校開設。(東京府荏原郡大崎町大字谷山)電気・建築・土木の3工学科設置。設立者は及川恒忠、手塚猛昌、西村有作。

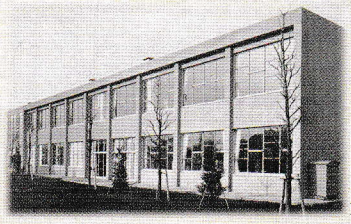
1929年9月【昭和4年】

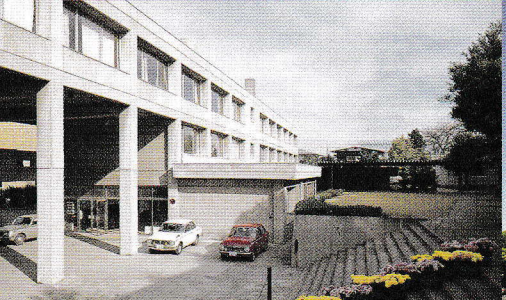

原子力研究所(王禅寺キャンパス)
トリガII型原子炉の設置工事

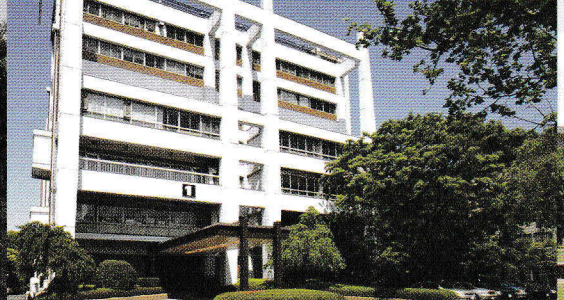

入学式当日の東横商業女学校正門(昭和14年)


世田谷キャンパス 昭和20年代の校舎全景


武蔵高等工科学校 五反田時代の仮校舎(昭和4年)


東横学園女子短大校舎





- 2018年4月【平成30年】 大学院総合理工学研究科設置。
- 2016年4月【平成28年】 クォーター制開始。
- 2015年6月【平成27年】 二子玉川夢キャンパス開設。（東京都世田谷区玉川）
- 2015年6月【平成27年】 世田谷区と包括協定を締結。
- 2015年4月【平成27年】 エディスコーワン大学（ECU）と留学プログラムに関する契約書に調印、東京都市大学オーストラリアプログラム（TAP）始動。
- 2015年4月【平成27年】 授業開始・終了のチャイムを東京都市大学グループ学園歌「夢に翼を」に変更。
- 2015年3月【平成27年】 マレーシア日本国際工科院（MJIT）コンソーシアムに加盟。
- 2015年1月【平成27年】 東京都市大学学長に三木千壽が就任。
- 2014年6月【平成26年】 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会大学連携協定を締結。
- 2014年6月【平成26年】 子育て支援センター「ぴっぴ」開設10周年、利用者23万人を突破。
- 2014年4月【平成26年】 日本科学未来館と包括連携協定を締結。
- 2013年9月【平成25年】 東京都市大学学長に北澤宏一が就任。
- 2013年4月【平成25年】 環境学部開設、環境創生学科、環境マネジメント学科設置。メディア情報学部開設、社会メディア学科、情報システム学科設置。●大学院環境情報学研究科修士課程都市生活学専攻増設。
- 2012年4月【平成24年】 共通教育部設置。
- 2010年6月【平成22年】 東京都市大学 総合グラウンド開所。（東京都世田谷区鎌田）
- 2010年4月【平成22年】 大学院工学研究科前期博士課程、博士後期課程エネルギー化学専攻開設。●大学院工学研究科前期博士課程・博士後期課程共同原子力専攻を早稲田大学と共同で開設。
- 2010年4月【平成22年】 東京都市大学渋谷サテライトクラス開設。（東京都渋谷区道玄坂）
- 2010年3月【平成22年】 **東横学園女子短期大学閉学**、54年の歴史（卒業生2万7千3百名余）を閉じる。
- 2010年3月【平成22年】 東京大学生産技術研究所と学術連携を締結。
- 2009年7月【平成21年】 東京都市大学女性研究者支援室（SOFERS：ソファーズ）設置。
- 2009年4月【平成21年】 **武蔵工業大学と東横学園女子短期大学が統合し東京都市大学と改称。**
- 都市生活学部開設都市生活学科設置、人間科学部開設児童学科設置、知識工学部自然科学科設置。●水素燃料エンジン搭載バスによる国内初の公道走行。
- 大学院工学研究科博士前期課程・博士後期課程電気電子工学専攻、生体医工学専攻、情報工学専攻開設。●早稲田大学と包括連携協定を締結。
- 2008年4月【平成20年】 工学部原子力安全工学科増設。
- 2008年3月【平成20年】 多摩美術大学、昭和大学と包括連携協定を締結。●東横学園女子短期大学学生募集停止。
- 2007年12月【平成19年】 室蘭工業大学と包括連携協定を締結。
- 2007年4月【平成19年】 工学部生体医工学科増設。●知識工学部開設、情報科学科、情報ネットワーク工学科、応用情報工学科設置。
- 2006年4月【平成18年】 東横学園女子短期大学学長に海老原大樹が就任。●大学院工学研究科博士前期課程・博士後期課程システム情報工学専攻開設。
- 2005年4月【平成17年】 大学院環境情報学研究科博士後期課程環境情報学専攻開設。
- 2004年10月【平成16年】 **武蔵工業大学創立75周年。**●新9号館（図書館）完成。
- 2004年9月【平成16年】 武蔵工業大学学長に中村英夫が就任。
- 2004年6月【平成16年】 東横学園女子短期大学 子育て支援センター「ぴっぴ」開設。
- 2004年5月【平成16年】 総合研究所開所。（東京都世田谷区等々力）
- 2004年4月【平成16年】 東横学園女子短期大学保育学科設置、保育分野の短期大学で国内初の昼間部3年制保育系学科。
- 2003年5月【平成15年】 原子力研究所原子炉の廃炉が決定。
- 2003年4月【平成15年】 新14号館 サクラセンター #14（体育館・学生食堂）完成。●大学院工学研究科博士課程エネルギー量子工学専攻開設。
- 2003年4月【平成15年】 東横学園女子短期大学学長に堺孝夫が就任。
- 2002年4月【平成14年】 環境情報学部情報メディア学科増設。●生涯学習センター設立。
- 2001年4月【平成13年】 大学院環境情報学研究科修士課程環境情報学専攻開設。
- 2000年4月【平成12年】 東横学園女子短期大学学長に松野道男が就任。●産官学交流センター設立。
- 1999年4月【平成11年】 エネルギー環境技術開発センター開所。

ISO14001登録証

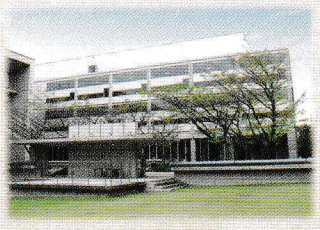
横浜キャンパス全景

子育て支援センター「ぴっぴ」

二子玉川夢キャンパス

東京オリンピック・パラリンピック競技大会
大学連携協定締結式。

水素燃料エンジンバスの開発は東京都市大学、
ラッピングデザインは多摩美術大学。



世田谷キャンパス
体育館［写真左］
図書館［写真右］

「キャンパスライフ2018」より抜粋

創立者

◎及川 恒忠(おいかわ つねただ)

1929(昭和4)年荏原郡大森(現:大田区大森)に所在していた東京高等工商学校(芝浦工業大学の前身)において、非常勤講師として教鞭をとっていた慶應義塾大学法学部教授の及川は、放校処分となった生徒たちの熱意により学校設立へと邁進した。1929(昭和4)年8月、私立武蔵高等工科学校学校設立申請書が東京府知事に提出された。

◎西村 有作(にしむら ゆうさく)

初代理事長。資産家であった西村は、慶應義塾の出身であった及川より、学校の設立資金を出資してもらうよう依頼を受け、承諾した。学校は財政面で危機に陥り、西村自身も健康を害するが、1955(昭和30)年に理事長が五島慶太に交代するまで私財を投じ学校の発展に尽力した。

◎手塚 猛昌(てづか たけまさ)

実業家であった手塚は、西村と同様に慶應義塾の出身であった及川より、学校の設立資金を出資してもらうよう依頼を受け、承諾した。晩年期に迎えた最後の人材育成事業となった。手塚は実業家である一方、日本で初めての時刻表「汽車汽船旅行案内」を発行した"時刻表の父"である。

建学の精神「公正・自由・自治」

校是は武蔵高等工科学校創設当時、創立者 及川恒忠によって作られた。及川は、開校当初、前慶應義塾長 鎌田栄吉先生に「独立自尊」(慶應義塾教育基本)を揮毫してもらったが、さすがに慶應のモットーを利用するわけにもいかなかった。元来中国学者であった及川は、中国で蒋介石の国民革命が成功を治めつつあった背景に、国民精神昂揚のためのモットー「礼儀・廉恥」があり、これを「独立自尊」に結び付け「自由・廉恥」としたが、難しいということで「公正・自由・自治」を創造した。また、学校設立の趣旨は「実質的技術教育への専心と、精神訓育の尊重」であり、「我々の志とは公正なる人格の陶冶と優秀なる工業技術の修得にある」と説いた。

校歌・校旗・学生旗

校歌は武蔵高等工科学校設立の翌年1930(昭和5)年に教員や生徒が一緒になって歌った寮歌に由来する。正式に校歌となったのは1933(昭和8)年の秋、その後、新しい校歌が作られたが、2009(平成21)年4月東京都市大学へと校名変更をするにあたり、初代の校歌を復活させた。歌詞にある「三色旗」は、当初「電・建・土木の三色旗…」として歌われ、設立時の3学科の象徴であった「青・赤・緑」に彩られた校旗としても作られた。3学科であった学科も1934(昭和9)年には4学科となり、その頃には校是の「公正・自由・自治」の建学の精神を象徴する「青・赤・緑」の三色旗とも考えられた。三色旗は1942(昭和17)年以降、新しい校旗へと変わっていったが、2012年度学位授与式から「学生旗」として復活。現在の校旗は、武蔵工業大学から東京都市大学へと校名変更となった際に、一部デザインを変更し、新たに生まれ変わった。校歌・校旗・学生旗は建学の精神と共に本学の象徴として次世代へと継承される。

校旗

学生旗

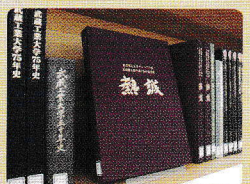
五島慶太(ごとう けいた)

[1882(明治15)年～1959(昭和34)年]

人の成功と失敗のわかれ目は
第一に健康である。
次には熱と誠である。
体力があって熱と誠とがあるならば、
必ず成功する。

五島慶太からのメッセージ

長野県小県郡青木村に生まれる。1900(明治33)年に松本中学校を卒業後、経済的事情もあり18歳で母校の青木村尋常高等小学校の代用教員となり教壇に立つ。その後しばらく教員生活を送ったが、上級学校への受験勉強を続け、1902(明治35)年東京高等師範学校(現:筑波大学)に進学した。東京高等師範学校では、当時校長であった嘉納治五郎先生(講道館柔道創始者、柔道の父)より「なあに」の精神を学ぶ。卒業後、英語教員として再び教壇に戻るが、さらに上級学校進学への情熱を失わず、1906(明治39)年に東京帝国大学(現:東京大学)法科大学に入学した。学生時代に出会った富井政章男爵(東京帝大名誉教授)、加藤高明伯爵(イギリス大使)から信頼を得られ、精神的にも経済的にも支援を受ける。卒業後は、農商務省に入省。その後鉄道院に転じ、9年半の官吏時代を経て実業界へ転身する。1920(大正9)年、武蔵電気鉄道(現在の東京急行電鉄の営業エリアの沿線開発を行う)に着任。ここからは鉄道事業と沿線開発へ情熱を発揮させた。例えば、沿線には多くの大学を誘致(東京工業大学、慶應義塾大学、武蔵工業大学等)し、文教都市化した。あわせて、渋谷を中心としてターミナル駅には百貨店を併設し、沿線に暮らす人々へ快適な生活空間をつくった。武蔵電気鉄道を起点に多い時は100社以上の社長、役員に就任し、武蔵電気鉄道はいくつかの鉄道会社と合併を繰り返しながら、1942(昭和17)年、東京急行電鉄株式会社となり、一代で大東急コンツェルンを築いた。五島慶太にとって事業とは夢の延長のようなものであった。"事業の夢"は朝早く浮かび、すぐさま社へと送られた。夢を持ち、夢を追い求めることこそが原動力となり、多くの事業を成功させた。50歳を過ぎても夢は見続けた。そのひとつが教育である。その頃から、教育への情熱がさらに強まり、1939(昭和14)年に東横商業女学校(現:東京都市大学等々力中学校・高等学校)を開校させた。女子教育および技術教育への必要性を早くから説き、本学との関係もこの頃から次第に強まっていく。鉄道事業のかたわら、半生をかけて古写経をはじめとして貴重な美術品の蒐集(しゅうしゅう)を精力的におこなった。その美術品は世田谷区上野毛にある五島美術館で後世へと受け継がれている。終生、夢を追い求めた五島慶太は、桜をこよなく愛し、禅語の「随所に主となる」を教訓とし、自らも生涯、信念を貫き、"随所に主"となった77年の人生であった。



【五島慶太翁生誕130年記念誌 熱誠】
五島慶太と東京都市大学グループ校の歴史について紹介。各キャンパスの図書館で閲覧可能。